

にいろねたて あと 二色根館の跡

市指定有形文化財（史跡）

「二色根館」とは、赤湯地区二色根の館山（標高 341.2m）の山頂を中心に築かれ、南麓の根小屋（館や城のある山の麓の集落）と一対になった根小屋式山城です。館山の山頂の第Ⅰ曲輪（城の内外を石垣や堀等で区画した区域）群は東の二重薬研堀（断面がV字形の堀）、南から西の二重の土塁（敵の侵入を防ぐために築かれた土製の堤防状の壁）、北の切岸（切り立った崖）で囲まれ、東西約 340m、南北約 200m の広さを有します。内部はコの字形の配置で、東側は北東の高所から段々の曲輪を連続させます。北と南に大きな曲輪を設け、南西側に主郭を配置し、北の副郭との間には障子堀（底に障害物を設けた堀）を配しています。南麓の根小屋から登る大手口は、土塁による食い違い虎口（城郭の出入り口）、西側から入る搦手口（裏口）も切岸と土塁で囲まれた帯曲輪（主要な曲輪の外周に配置される細長い小曲輪）の食い違い虎口が配置されて厳重です。また、指定地外になりますが、第Ⅰ曲輪群の東南の薬師山の山頂にも空堀と土塁で囲まれた第Ⅱ曲輪群があります。戦時に援兵の駐屯地や住民の避難場所となりました。

薬師寺境内の字名は館の内で、薬師寺門前も大門の字名であることから、二色根館は、二色根小屋・薬師寺・薬師山を含む広大な城郭を成していたと思われます。最上との境目を守った拠点にふさわしい城館です。館主は、伊達親族にして家臣である栗野氏の一族、栗野十郎左衛門宗次と言われています。その子、栗野籐八郎は天正 18（1590）年の伊達政宗毒殺未遂事件に絡み行方をくらまし、後に豊臣秀吉に仕え大出世しましたが、関白豊臣秀次事件に関係し処刑されました。二色根館は、伊達政宗毒殺未遂事件の際に、栗野氏が滅ぼされたことにより廃止されました。



南陽市文化財保護審議委員 佐藤鎮雄
平成 28 年 11 月 1 日号 市報なんよう掲載